

世田谷村日記

石山修武

二月十五日

七時半起床。今日は我孫子の馬場昭道氏と仏教伝道協会に頼み事だろうか予定。研究室のアベル、ヘルベルト、蔡の民族混成チームでほぼ2ヶ月かけたフィンランドの「静けさ」の寺の案を完成させた。ゆつくりとしたペースだったが、それなりにまとまった。石山研としてはプロジェクト作成に一つの方法を得たような気がする。朝の光の中で梅の木にうぐいすが二羽花に埋もれて飛び跳ねているのを見おろしている。十時前京王線稲田堤星の子愛児園。増築部分につながるブリッジを架ける相談。近藤理事長・園長先生に久しぶりにお目にかかる。十二時研究室。

十五時三田の仏教伝道協会センタービル。チョツと早く来過ぎた。近くのコーヒーショップで小休。十五時四〇分馬場昭道と伝道協会事務局へ。十六時理事長、沼田智秀氏と面談。十七時過修了。カゼ気味の昭道さんと東京駅で別れ、十九時世田谷村に戻り、二〇時に寝てしまう。カゼ対策は早寝に限る。

二月十六日

四時四六分地震あり。六時起床。小雨。六時五〇分発大学へ。今日は終日入試カントクに時間を取られる。

二月十七日

七時過起床。長男雄大今日からアメリカへ。九時府中。八大建設西山社長と国分寺岡邸へ。西山さんはヨーロッパで五〇KMのス

キーレースに出場し帰国。車の中でその話しを聞く。十三年で十回の世界中のレースに出場して、ひとつの区切りだったと言う。うらやましい限りである。本格的な寺をやる時は彼の経験が生かせると良い。十一時研究室。今日もキャンパスは空間表現の試験で立入り禁止。静かだ。

十四時空間表現採点開始。今年の出題は仲々高度なものであったが受験生は良くやっている。世界でもこの類の形式で入試をやっているのは唯一早稲田の建築学科だけであろう。うまく育てながら続けてゆけば学科の財産になるのは間違いない。十七時教室の先生方で会食。学科の将来についてワインを飲みながら話し合う。